

各課所で行われている、県民サービス向上や業務改善に向けた意欲的な取組をレポートします。

## 新しいワークスタイルの試行 (パソコンオフ時間、フリーアドレス、ペーパーレスミーティング)

情報政策課

ここがポイント 

- 民間企業等のワークスタイルを参考に、職員間のコミュニケーションを促進
- パソコンを集中的・効率的に使用することにより、業務のメリハリ向上にも効果

パソコンや情報システムなどのICTの普及により、業務効率は飛躍的に向上しましたが、一方で、過度の依存により職員間の直接的なコミュニケーションが減少したり、希薄化する傾向が見られます。

そこで、情報政策課では、国(総務省)や民間企業(未来工業㈱、アイリスオーヤマ㈱、日本ヒューレット・パッカード㈱等)への先進事例調査も参考に、ICTを効果的に活用しつつ、職員間のコミュニケーションの促進等に向けた新たなワークスタイルの試行に取り組みました。

### 1 パソコンオフ時間の設定

平成27年10月から、グループ単位で「パソコンオフ時間」を週2時間程度設定することを各所属に呼び掛けています。

これまでに88所属において実施され、設定した時間をグループミーティングなどに活用することにより、業務上の課題共有やアイデア交換が行われるなど、コミュニケーションの活性化に一定の効果が出ているところです。

### 2 フリーアドレス(個人機の廃止)

平成28年2月から、1つのグループにおいて、片袖の個人機を廃止し、引き出しのない大型の共有機に入れ替えました。さらに、グループ員はどの席でも業務ができることとしました。

机上にあったパソコンや書類はロッカーに整理し、出勤時にロッカーから取り出して使用し、退庁時に片付けます。

これにより、その日の業務内容に応じた柔軟な座席配置ができるようになったほか、他のグループ員が行っている作業状況が見えやすくなったり、職員間の情報共有が容易になるなど、コミュニケーションが活発化したとのことでした。



フリーアドレス。仕事のしやすい席に座ります。

### 3 ペーパーレスミーティング

平成28年2月から、執務室の一角に楕円形のテーブルと大型ディスプレイを設置しました。

ミーティングの際は、資料を手元には配布せず、大型ディスプレイに表示します。

これにより、紙使用量の削減に繋がったことはもちろん、メンバーが顔を上げて参加するため、議論の活発化や一体感を高める効果があったそうです。

なお、ミーティングで使用していない時は、パソコン作業を集中的に行うためのスペースとしても活用し、業務のメリハリが出るよう工夫しています。



ペーパーレスミーティング。一体感のある会議ができます。

行革分権室  
から一言

調査した民間企業では、ご紹介した「フリーアドレス」等のほか、「テレワーク」や「立ちミーティング」など新しいワークスタイルが行われていました。良いものはうまく取り入れていけるといいですね。